

自 吉川小学校6年生 防災学習の成果を発表
分たちで防災のこと調べたよ

2月21日(木)吉川小学校6年生の4人が、清藤市長に防災について学習した成果を発表しました。児童らは吉川地区を歩いて回り、標高や危険箇所、避難場所までの時間などを地図に落とした独自の津波ハザードマップを作成。防災に興味を持ち、防災意識を高める取り組みを学校全体で行っています。発表後、市長より津波避難タワーの建設予定地などについて説明を受け「関心を持って調べることがとても大事。これからも続けてください」とエールをもらいました。



▲市長に津波ハザードマップの説明をする小学生

薬 ステッカー交付式及び災害時おくすり見本寄贈式



▲災害時おくすり見本 ▲西田光宏県薬剤師会香長土支部長(左)より清藤市長に「おくすり見本」を寄贈

薬 災害時協力薬局ステッカー交付式および災害時おくすり見本寄贈式
薬剤師会と市町村との協定強化に向けて

2月28日(木)県薬剤師会香長土支部から香南市など7市町村に、災害時の支援協定強化のため「災害時おくすり見本」を寄贈していただきました。おくすり見本は、災害時にお薬を見つける手がかりや、服薬指導のツールとして作製。一方、市町村から薬剤師会に対して、日ごろの災害医療への貢献や災害時のお薬のアドバイスなどを協力する証として、「災害時協力薬局ステッカー」を交付しました。ステッカーには、標高などの災害に関する情報も盛り込まれています。

通 赤岡小学校5・6年生 登下校時避難訓練
学途中の地震や津波に備える

3月7日(木)赤岡小学校5・6年生と教員合わせて62人が、登下校時に地震が発生した場合を想定した避難訓練を行いました。児童らは、赤岡消防団員と一緒に通学路を歩きながら、家屋倒壊の恐れがある危険箇所や通学路周辺の安全な避難場所を確認。周りに大人がいなくても、自分の判断でどこに逃げなければならないのかを学びました。参加した児童は「いざという時には高い道を通り、あわてず近くの安全な避難場所に逃げたい」と話してくれました。



▲横町商店街で消防団員の説明に耳を傾ける小学生

9 第6回かがみ花フェスタ
万本の色鮮やかなチューリップが観客を魅了

3月10日(日)~4月上旬まで、130品種・約9万本のチューリップが、来場者の目を楽しませてくれました。今年の見所は、観光PRキャラクター「こーにゃん」のシルエットと、第6回の「6」の字が浮かび上がるように岸本小学校児童らが球根を植え付け、配色に工夫を凝らしていました。またトロッコ列車も登場し、子どもたちに大人気。訪れた親子連れは、のんびりとベンチに腰をかけ、チューリップ畑を満喫していました。



▲チューリップ畑にたくさんの笑顔の花が咲きました

歩 田園ウォーキング in 吉川
くって気持ちいい~!

3月16日(土)吉川地区健康推進員によるウォーク大会が開催され、約70人が吉川町天然色劇場から上岡八幡宮を折り返すコースを歩きました。ウォーク前に運動指導士の前田郁さんから「肩甲骨を動かし、腹を引っ込ませて歩くと、脂肪の燃焼率が4割アップします」と説明を受けて、参加者は姿勢良くいきいきとウォーキング。4月になると天然色劇場の周辺は桜が見頃を迎えます。皆さんもぜひウォーキングに来てはいかがでしょうか。



▲桜は咲いていませんが話に花が咲いていました

認知症「よりそいかるた」が完成しました



南国・香南・香美地域で、認知症などの高齢者を介護されている家族会や地域包括支援センターなどの関係機関が連携し、認知症の正しい知識や実情を地域の皆さんに広く啓発するため「認知症よりそいかるた(以下、かるた)」を作成しました。認知症をテーマにした、かるたは、県内で初めて。
このかるたは、認知症の方の介護に関わる家族などが認知症への日ごろの想いを詠んだ句(川柳)に、城山高福祉教養系と山田高校マンガ部の生徒が描いた挿絵を添えたもの。作成に関わった介護者家族の会(以下、家族会)や高校生の想いなど、完成までの取り組みを紹介します。

挿絵は城高生が担当

昨年の6月から8月にかけて、介護を続ける人たちの家族会やグループホームなどから158句が寄せられ、その中から44句を選定。読み札句に、城山高福祉教養系の3年生が、約1カ月かけて挿絵を描きました。生徒らは、句を詠んだ人の気持ちを考えながら、授業で学んだ知識と感性を生かして挿絵を描写。句の状況が想像でき、温もりが感じられる挿絵に仕上がりました。

完成交流会で心通わす

2月22日(金)には香美市のプラザ八王子で、完成交流会を開催。かるたの作成に関わった家族会や高校生などが集まり、作成に関わった感想や取り組みについての意見交換を行いました。
その後、家族会と高校生が一緒にあって、かるた取りで交流。お互いが認知症に対する理解と交流をより深め、心を通わすことができました。

心に寄り添う介護

五七・五に込められた苦労や悩み、家族の愛情など支える側の思いに、高校生がペンを取ることで寄り添い表現した「認知症よりそいかるた」。家族会と高校生同士が寄り添い、そして思いが伝わる素晴らしい機会となりました。

このかるたの作成をきっかけに、介護家族の負担軽減や若い世代を巻き込んだ地域の支え合いの輪がさらに広がること、そして人の温かさが感じられる、心に寄り添う介護が、社会全体に浸透していくことを願っています。



★読み札の解説★

【詠人の思い・メッセージ】
風呂上がりにはベッドに腰をかけて長袖の肌着に足を入れていた様子。思わず笑ってしまっ。

【認知症のワンポイントアドバイス】
認知症になると、もの忘れを中心に、記憶力・理解力・判断力が衰え、今まで一人でできていた通常の生活ができにくくなります。



かるたを作成しての感想

●家族会
介護をした者しかわからない気持ちを、高校生がよくとらえて絵にしてくれて大変うれいす。
かるたが世に出回って、みんなが介護しようという地域の力につながってほしいです。

●城高生
認知症の人やその家族の方を地域や周りが偏見を持たずに見守っていくことが大切なので、困った時は少しでも頼りにしてもらいたいという思いを絵に込めました。認知症患者を抱えた家族の人の気持ちや心の声を理解することができました。

かるたの貸出ができます。
ぜひご利用ください。

■問い合わせ
市役所高齢者介護課 ☎578511



◀中央東福祉保健所から贈られた感謝状を手に笑顔の城山高生